

**決算説明資料  
(2015年度)**

2016年 5月 31日

 **株式会社 重松製作所**

# 2015年度 決算概要

## 2015年度の総括

- 当年度のわが国の経済は、政府や日銀の政策効果により、企業業績の堅調な回復を背景に、雇用・所得環境の改善や設備投資需要の増加等もあり、景気は緩やかな回復傾向で推移しました。しかし、年明け以降は、個人消費の停滞感に加え、急速に進行した円高や不安定な株式市況の影響等から、景況感の悪化が見られるようになってきました。
- このような経済環境の中、主要顧客である民間製造業からの受注が期初から好調だったことに加え、原子力発電所からの受注も一定水準以上を維持したこと等もあり、年度を通じた呼吸用保護具全般の受注は、製品を中心に前年度を上回る好調な水準で推移しました。この結果、売上高は108億9百万円と前年度比7.7%の増収となりました。
- 一方、利益面では、売上高増加により製品原価・商品原価とも増加しましたが、船引・埼玉両事業所での期初からの生産効率向上への取り組みによる効果等もあり、前年度に続き今年度も製品原価率の改善を図ることができました。この結果、売上総利益は35億75百万円と前年度比11.3%の増益となりました。また、販売費及び一般管理費は、積極的な拡販活動や研究開発力の強化に伴う人件費・諸経費増が避けられず、前年度比5.5%増の29億75百万円となりました。
- 以上のことから、営業利益は5億99百万円（前年度比52.9%増）、経常利益は5億83百万円（前年度比67.3%増）、また製品自主回収関連費用84百万円を特別損失に計上したことから、当期純利益は3億31百万円（前年度比45.8%増）となりましたが、前年度に続き増収増益決算となりました。

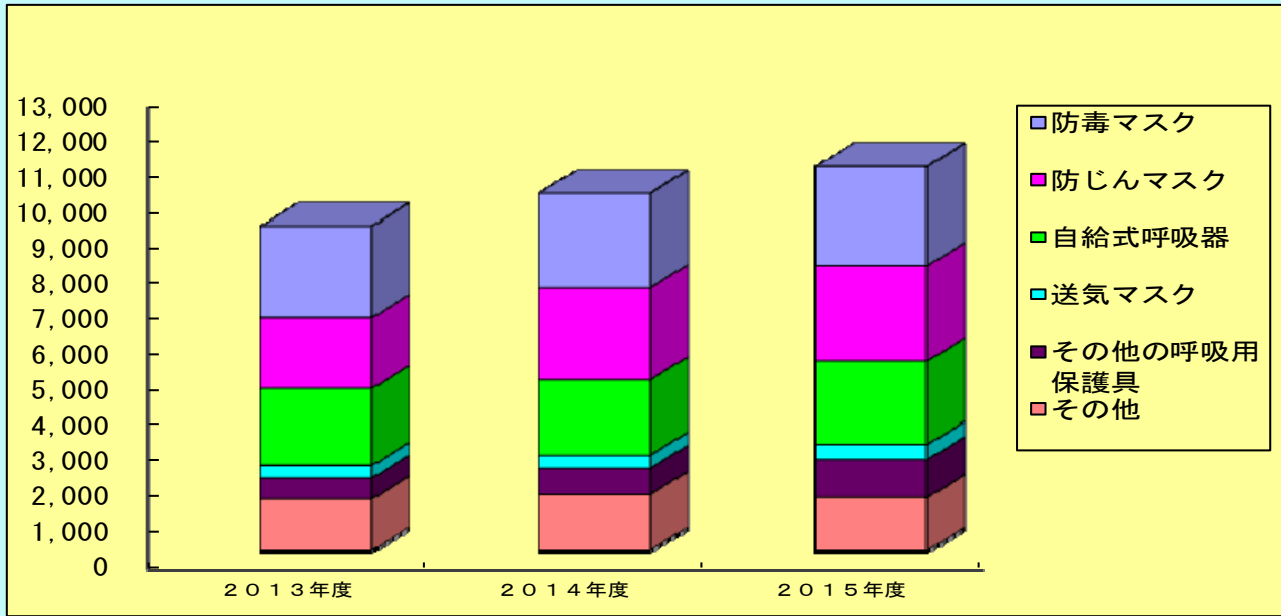
## 2015年度 損益の状況

(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	2013年度	2014年度	2015年度		
			実績	前々期比 増減	前期比 増減
売上高	9,119.7	10,034.2	10,809.5	1,689.8	775.3
製品製造原価	3,908.7	4,359.2	4,664.2	755.5	304.9
商品原価	2,366.4	2,462.4	2,570.7	204.3	108.4
売上原価	6,275.1	6,821.6	7,234.9	959.8	413.3
売上総利益	2,844.6	3,212.5	3,574.6	730.0	362.0
販売費及び一般管理費	2,643.6	2,820.7	2,975.5	331.9	154.8
営業利益	201.0	391.9	599.1	398.1	207.2
営業外収益	76.7	49.0	42.6	△ 34.1	△ 6.4
営業外費用	93.9	92.3	58.5	△ 35.4	△ 33.8
経常利益	183.8	348.6	583.1	399.3	234.6
特別利益	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別損失	15.7	14.5	99.8	84.1	85.3
税引前当期純利益	168.1	334.1	483.3	315.2	149.3
法人税等	11.1	34.2	170.4	159.4	136.3
法人税等調整額	76.6	72.9	△ 18.0	△ 94.6	△ 90.9
当期純利益	80.4	227.0	330.9	250.5	103.9

## セグメント別売上高推移

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

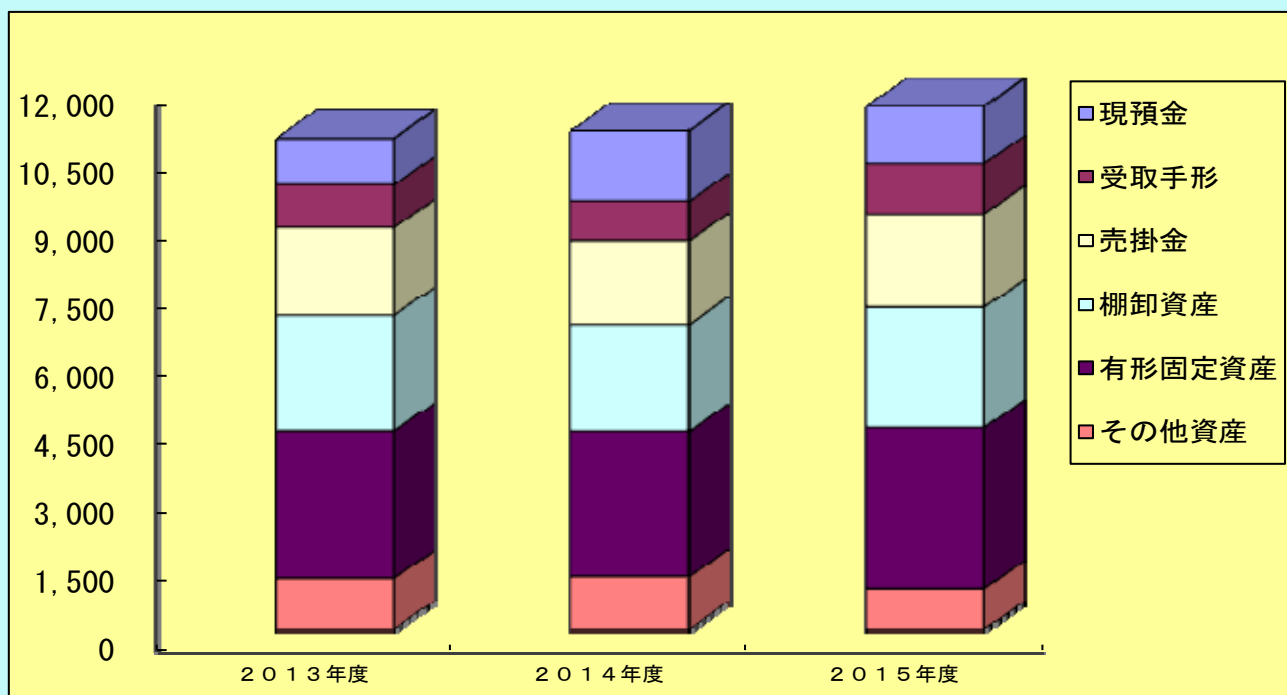
	2013年度	2014年度	2015年度
防毒マスク	2,598.8	2,658.0	2,804.4
防じんマスク	1,974.4	2,587.5	2,678.3
自給式呼吸器	2,165.8	2,123.9	2,353.7
送気マスク	358.0	372.8	425.8
その他の呼吸用保護具	595.3	739.9	1,078.7
その他	1,427.4	1,552.1	1,468.6
合計	9,119.7	10,034.2	10,809.5

## 当年度の特徴

- ① 当年度のわが国の経済は、企業業績の改善等を背景に、緩やかな景気回復傾向で推移しましたが、年明け以降は個人消費の停滞感、円高や株価低迷の影響から、景気の先行きは不透明感を増しつつあります。
- ② このような環境の中、民間製造業や原子力発電所からの受注が、総じて好調だったことから、売上高は、前年度比7億75百万円の増収となりました。
- ③ 主要品目別では、防毒マスクが前年度比1億46百万円、防じんマスクが91百万円、その他の呼吸用保護具が電動ファン付き呼吸用保護具を中心に3億39百万円の増加となりました。
- ④ 自給式呼吸器は前年度比2億30百万円、送気マスクが53百万円の増加となりました。一方、上記以外の主要品目は、合計で84百万円の減少となりました。

## 主要資産状況推移

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	2013年度	2014年度	2015年度
現預金	1,022.2	1,558.4	1,263.8
受取手形	941.0	864.3	1,102.9
売掛金	1,925.5	1,842.2	2,055.7
棚卸資産	2,546.8	2,352.2	2,646.0
有形固定資産	3,241.7	3,193.9	3,539.0
その他資産	1,119.2	1,159.6	897.8
合計	10,796.4	10,970.7	11,505.2

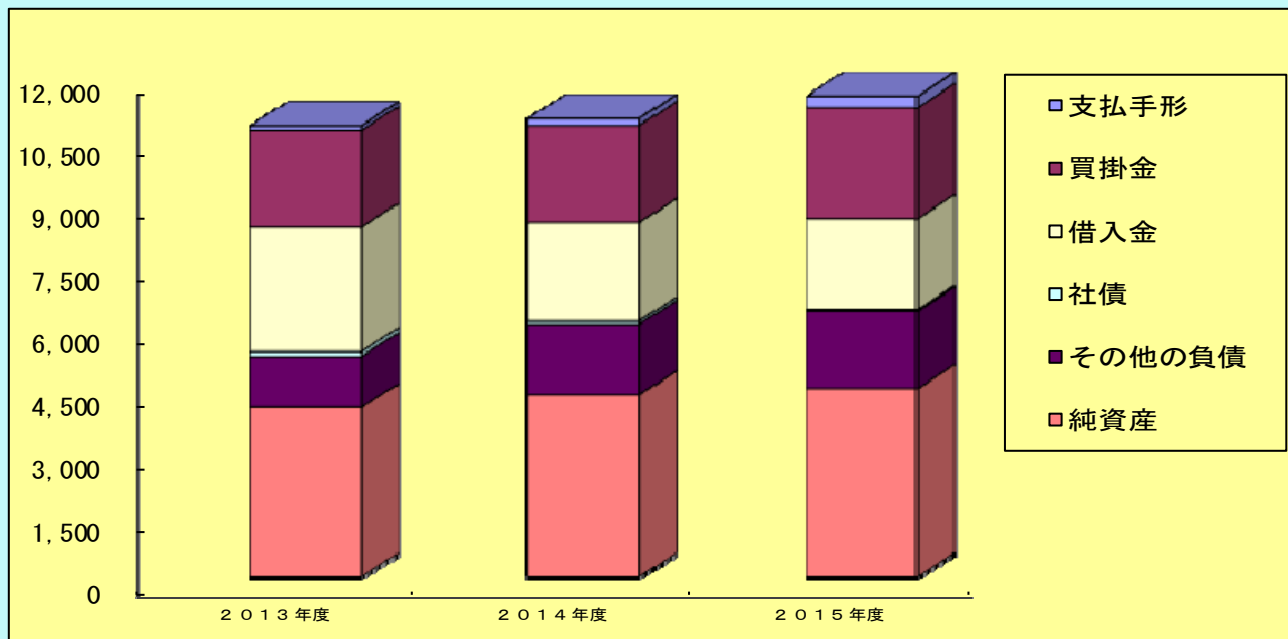
注： 本表における受取手形には、債権売却手形（資金化分）は、簿外のため含まれていません。

## 当年度の特徴

- ① 現預金は、設備投資に伴う資金需要を踏まえ、資金調達と運用の効率化を進めたことから、前年度末比で、2億95百万円減少しました。
- ② 売上債権（受取手形＋売掛金）残高は、売上高の増加に伴い、4億52百万円の増加となりました。
- ③ 棚卸資産は、材料が減少する一方、仕掛品及び商品が増加し、全体では2億94百万円の増加となりました。
- ④ 有形固定資産残高は、積極的な新規設備の導入、既存設備の改良及び金型投資により、3億45百万円増加しました。
- ⑤ 株価の低迷により、投資有価証券は1億70百万円減少し、長期性預金も1億円減少した結果、その他資産全体では2億62百万円の減少となりました。

## 主要負債・純資産状況推移

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

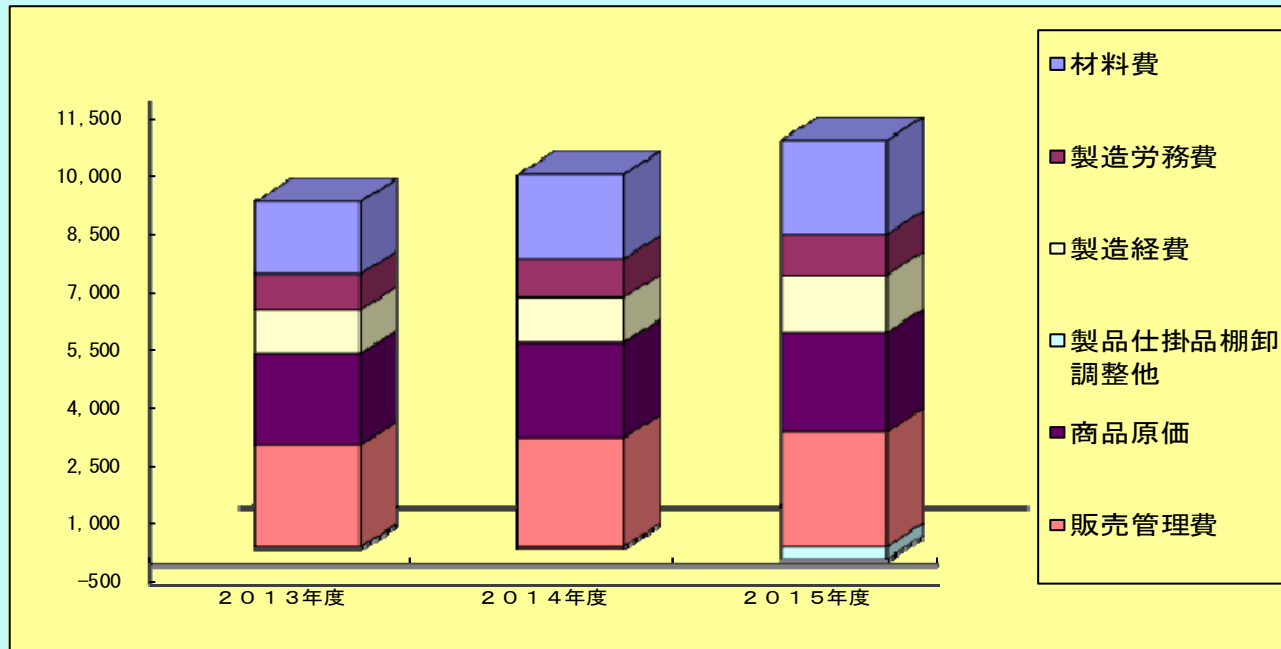
	2013年度	2014年度	2015年度
支払手形	103.5	163.9	274.0
買掛金	2,319.7	2,322.5	2,654.6
借入金	2,976.5	2,355.8	2,177.7
社債	120.0	80.0	40.0
その他の負債	1,222.1	1,687.5	1,848.2
純資産	4,054.5	4,361.0	4,510.7
合計	10,796.4	10,970.7	11,505.2

## 当年度の特徴

- ① 支払債務（支払手形＋買掛金）残高は、売上高の増加に伴い、前年度末比では4億42百万円増加しました。
- ② 借入金及び社債の残高は、期中の設備資金及び年度資金の需要を踏まえ、資金調達の効率化を進めたことから、前年度末比では2億18百万円減少しました。
- ③ その他の負債は、繰延税金負債、未払法人税、賞与引当金、未払費用等が増加した結果、全体では前年度末比で1億61百万円増加しました。
- ④ 純資産の残高は、前年度末比で1億50百万円増加の45億11百万円、自己資本比率は39.2%となり、ほぼ前年度並みの水準を維持しております。

## 売上原価・販売管理費推移

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	2013年度	2014年度	2015年度
材料費	1,870.6	2,182.6	2,425.2
製造労務費	925.7	1,003.2	1,054.6
製造経費	1,131.1	1,163.8	1,495.3
製品仕掛品棚卸調整他	△ 18.7	9.5	△ 317.5
商品原価	2,366.4	2,462.4	2,570.7
販売管理費	2,643.6	2,820.7	2,975.5
合計	8,918.7	9,642.3	10,210.4

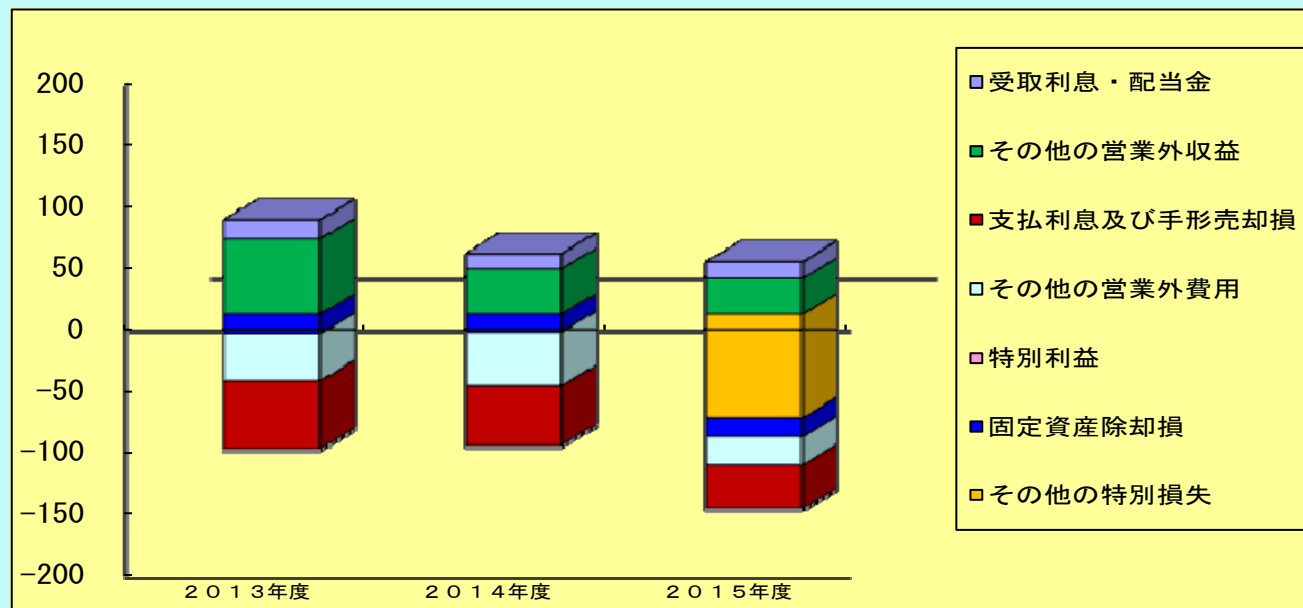
## 当年度の特徴

- ① 製造部門は、製品売上高の大幅な増加や生産効率の向上に注力したこともあり、製品原価率は前年度比で1.4ポイント改善しました。
  - ・材料費は、前年度比で2億43百万円増と、製品売上高の大幅増加を反映した水準となりました。
  - ・製造労務費は、前年度比で51百万円の増加に止まっております。
  - ・製造経費は、外注加工費、器具工具消耗品費、減価償却費等の増加を中心に、前年度比では3億31百万円の増加となりました。
- ② 商品原価は、前年度比では1億8百万円の増加となりましたが、対売上高比率では、ほぼ前年度並みの水準を維持しております。
- ③ 販売費及び一般管理費は、積極的な拡販活動や研究開発力の強化に伴う人件費・諸経費増が避けられず、前年度比で1億55百万円の増加となりました。



## 営業外・特別損益推移

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	2013年度	2014年度	2015年度	
営業外損益	受取利息・配当金	15.5	12.2	13.5
	その他の営業外収益	61.2	36.8	29.1
	支払利息及び手形売却損	△ 55.4	△ 48.4	△ 35.6
	その他の営業外費用	△ 38.5	△ 43.9	△ 22.9
	営業外損益合計	△ 17.2	△ 43.3	△ 15.9
特別損益	特別利益	0.0	0.0	0.0
	固定資産除却損	△ 15.7	△ 14.5	△ 15.4
	その他の特別損失	0.0	0.0	△ 84.4
	特別損益合計	△ 15.7	△ 14.5	△ 99.8

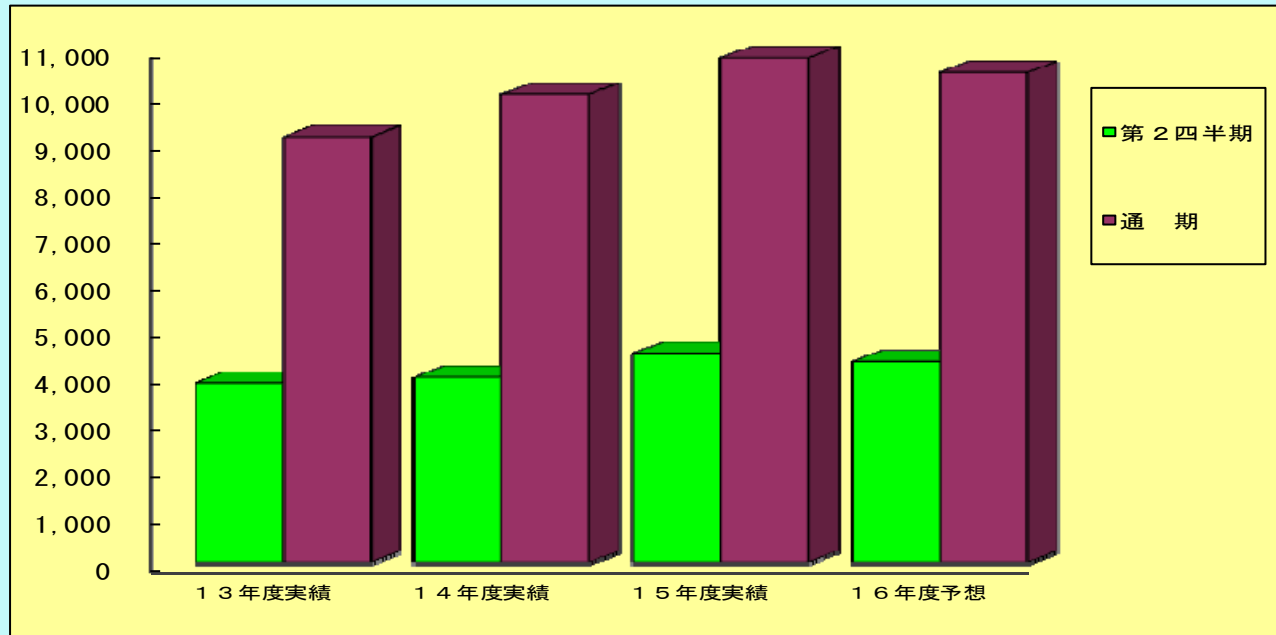
## 当年度の特徴

- ① 前年度比では、受取利息・受取配当金は増加、その他の営業外収益は、減少となりました。
- ② 前年度と同様に、資金調達コストの削減を図ったことから、支払利息及び手形売却損の残高は、前年度比で減少しました。
- ③ 前年度に引き続き当年度も、固定資産売却益はありません。
- ④ 特別損失として、固定資産除却損の他に製品自主回収関連費用 84 百万円を計上しました。

# 2016年度 業績予想

## 2016年度の売上予想

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点未満四捨五入)

	13年度実績	14年度実績	15年度実績	16年度予想
第2四半期	3,847	3,967	4,480	4,300
通期	9,120	10,034	10,809	10,500

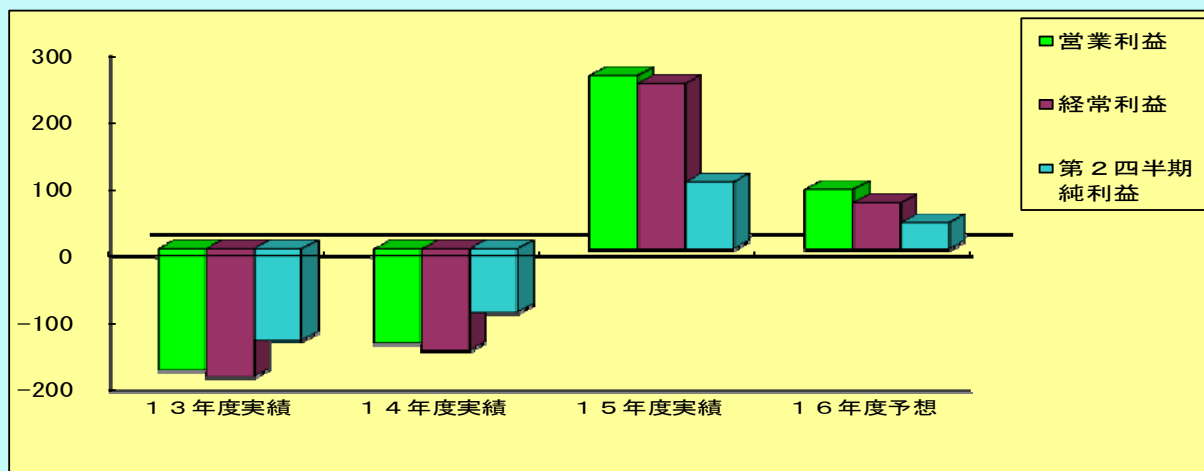
## 予想のポイント

2016年度におけるわが国の経済は、個人消費の伸び悩みなど停滞感が漂う中、政府及び日銀の各種対策発動による景気下支えが期待される一方で、ドル円相場の動向や海外経済の減速懸念等の景気下振れリスクもあり、景気の先行きは不透明と言わざるを得ない状況となっております。

このような経済環境の中、呼吸用保護具の需要は、原子力発電所関連に加え、環境問題や地震、感染症、テロのような突発的な天災・人災、社会インフラの改修等、全体としては緩やかに拡大していくものと思われます。このような中、引き続き新製品開発力の強化を図るとともに、積極的できめ細かい販売活動に注力することで、2016年度の売上高は、前年度比で微減の105億円を見込んでおります。

## 2016年度 第2四半期の利益予想 (単位：百万円)

## 予想のポイント

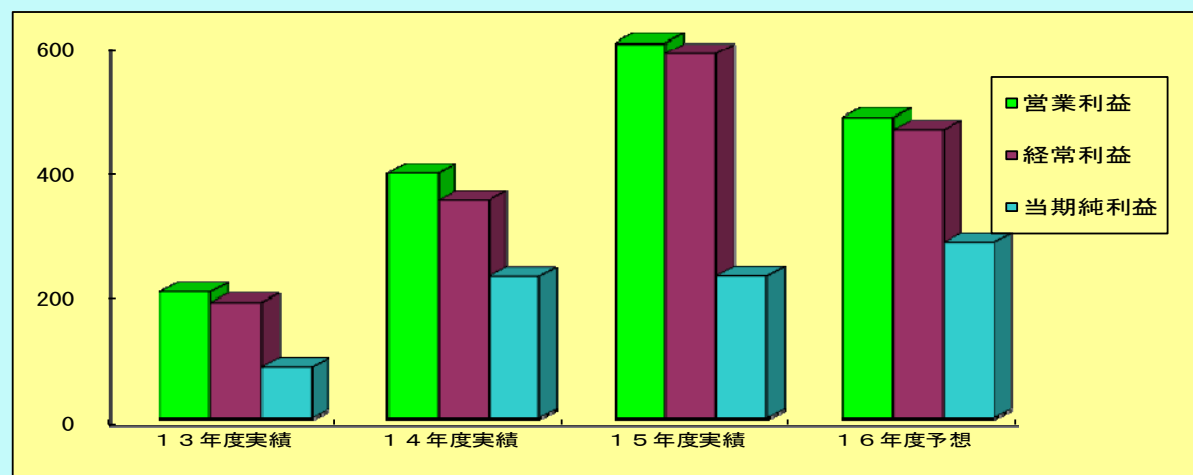


2016年度第2四半期は、前第2四半期をやや下回る売上高を、利益面は、第3四半期以降の拡販活動に向けた対応に伴う各種費用が先行計上されることもあって、営業利益、経常利益、第2四半期純利益とも相応の黒字は確保するものの、前年度比では減益を見込んでおります。

(単位：百万円、小数点未満四捨五入)

	13年度実績	14年度実績	15年度実績	16年度予想
営業利益	△181	△140	261	90
経常利益	△191	△152	249	70
第2四半期純利益	△136	△95	102	40

## 2016年度 通期の利益予想 (単位：百万円)



2016年度通期は、引き続き景気の先行きに不透明さはあるものの、積極的な新製品の拡販や主要顧客の民間製造業からの受注活動を強化することで、相応の水準の営業利益、経常利益、当期純利益を見込んでおります。

(単位：百万円、小数点未満四捨五入)

	13年度実績	14年度実績	15年度実績	16年度予想
営業利益	201	392	599	480
経常利益	184	349	583	460
当期純利益	80	227	331	280